

2022年5月30日

音楽科

吉田 あかね

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2021年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
教養	社会人入門 1,2	必修	1年 前・後期	6名
専門	専修実技 1,2,3,4,A,B	選択	1,2年専攻科 前・後期	8名
専門	ソルフェージュ 2	必修	2年 前期	10名
専門	ソルフェージュ 1,2	必修	1年 前・後期	9名
専門	伴奏法	選択	1年後期	6名
専門	室内楽 A,B	必修	専攻科 前・後期	2名
教職	教育実習 事前事後指導	教職必修	2年 前・後期	5名

*科目区分：「教養」、「専門」、「教職」の3つから指定すること。

*種別：「必修」、「選択」の2つから指定すること。なお、選択必修は「選択」とする。

2. 教育の理念

楽曲に対する知識や理解を深め、自らが感じ、考えたことを表現できるようになること。

又、その手段として演奏技術を高め、さらに観客の前での効果的なパフォーマンスへつなげていくことを目標としている。

教職科目においては、計画性・適応力・実践力が求められるため、あらゆる場面を想定して、学生自らが考え授業を展開できる力を身につけることを目標としている。

3. 教育の方法

専修実技の個人レッスン、また室内楽のレッスンにおいては、まずは本人の感じ方や意思を尊重するように努めている。それを発言しやすい環境を作るのももちろんのこと、その上で違った解釈があれば提案し、それらを実践するために必要な技術も指導している。実技に関連して、ソルフェージュの授業では、自らの音を聴く力を養うため、旋律や和声の書き取りや正しくリズムを把握すること等を指導している。又、しばしばフォルマシオン・ミュージカルの指導法を取り入れ、楽曲をあらゆる観点から分析し、総合的な知識を養えるよう取り組んでいる。

伴奏法や教職科目においては、学生一人一人の発表や模擬授業に対して、他の学生や教員からコメントを発表する形をとっており、それらを取り入れながら、回を重ねるごとに自ら改善していけるよう指導している。教育実習に向けては、よりよい授業を展開するための方法をお互いディスカッションする時間も設けている。又、伴奏法の授業では、短いサイクルで学習を見直すことにより、学習した内容がより定着するよう、一つの単元が終わるごとに振り返りとまとめテストを実施している。

4. 教育の成果

2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、科目の特性を考慮し、できる限り対面での指導を行った。その中でも、人数の多い科目については密にならないよう努め、又ソルフェージュの授業においては視唱を減らす等の対策を行った。

実技においては、計画的に練習・研究をする学生が増え、こちらからの質問に対してははっきりと自らの意見を言えるようになった。2021 年度も人前での演奏機会が少なかったが、少なかったからこそ、定期演奏会や卒業演奏会などの数少ない機会に照準を合わせ、熱心に取り組むことができていたように思う。

又、伴奏法においては、前年度より受講人数が少なかったため、授業時間内に、アドバイスを基にした練習をする時間を設けることにより、課題をその場で改善するという効率的な学びになったと考える。振り返りの感想や授業評価アンケートの結果によりそのことがうかがえる。

5. 今後の目標

今後も、積極的に学生同士、又教員に対しても、様々な意見や感想を言い合える環境を作りたい。専修実技の個人レッスンにおいても、学生同士がお互いの演奏を聴く機会を設け、互いの演奏についてよかったと思う点や自分が取り入れたいと思う点などをコメントできるような取り組みをおこなえたらよいと思う。（※実技に関しては、マイナス点を学生同士で伝えるのはあまりよくないと考えるため、プラス点のみをコメントできる方式をとりたい）

コロナ渦のため、様子を見ながらできるところから取り入れていきたい。

6. 根拠資料

- シラバス
- 授業資料（配布プリント、ソルフェージュ課題）
- 模擬授業評価票（教育実習 事前事後指導）
- 小テストの写し（伴奏法）
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書
- 室内楽発表会プログラム

- 定期演奏会・卒業演奏会プログラム